

# 山の神

(高萩市)

平成2年12月掲載

**む**かし、花貫川の上流の大能村(高萩市大能)に、柴田勝之丞しばたかつゆというたいそう腕のたつ獵師りやうしが住んでおりました。

ねらった獲物えものはほとんどはずすことがなく、もちろん、村には、勝之丞にかなうものはおりませんでした。

それでも、勝之丞は、いつももつと腕を上げたいと思っておりました。

ある時、勝之丞は、山のてっぺんにある岩のそばに、赤松あかまつを逆さかにさして山の神をまつり、「山の神様どうか私に力をお与えください。今年こそ、猪いのししと鹿を千頭射止いとめさせてください。」と願をかけたのです。

その甲斐かひあつてか、勝之丞の獲物の数は、日に日にふえていきました。五百、六百、七百、八百……そして九百九十頭目を射止めた時、勝之丞の願いが山の神に通じたのか、逆に植えた松に根が生えたのです。それからまもなく勝之丞は、千頭目の獲物を射止めることができたのだそうです。

